

市民の立場からの寄稿



パタゴニアの風を求めて

石川 規子

株式会社グレートスピリッツ

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-16-7-502

今回の南米行きの話が決まったのは、クリスマスを迎える数日前で会社の社長が通訳として水素エネルギー協会の先生方を案内するとの話で私にとっては急遽降って沸いた話でした。私は前々から友人が住む南米ブエノスアイレスに「何時かは行きたい」と思っていたのでチャンス到来とばかり同行する話しに乗りました。しかしながら私の記憶にあるのはアルゼンチンは日本から見て地球の裏側にある遠い国・季節と昼夜の時間はまったく反対であるしアルゼンチンタンゴの発祥の地であることくらいに認識しかありません。また、ただ単純に「友人に会える」と「知らない世界を観る」という曖昧な気持ちで参加しました。

友人の話ではスペイン語圏のブエノスアイレスは「南米のパリ」とまで言われ、市内にはヨーロッパ的な雰囲気を取り入れていてそこそこに古い歴史ある建造物が多くあり、新しい町並みとそして緑の多い公園とが混在し非常に調和のとれた美しい街です。日本人が生活するのも非常になじみやすいと教えられました。

さて、今回のフライトは正月の3日に東京をたちフラクフルト経由で30余時間を費やしブエノスアイレスに着きました。混み合う税関を無事通過し空港からホテルに向かう途中眼に入ってきた景色は友人から聞いた通りで、古い建物の町並みと現代的な建物の数々が並び広い車道の両側には美しいジャカラダの花が咲き乱れていました。緑の多い公園を横目に見ている間にホテルに到着しました。また、ホテルのロビーに入るやいなや目に飛び込んできたのがアンティーク調につくられた背の高い天井とアールデコ調のレストランで本当に感激しました。一息ついたときに友人が訪れ数年ぶりの再会を喜びあいました。

友人に今回の旅行の目的は観光ではなく水素エネルギー協会の先生方の仕事でアルゼンチンの各地域にて水素エネルギープロジェクトの関係者との会合や工場視察をする等一通り説明しましたら余りに過密なスケジュール

なのでびっくりしていました。街をゆっくり案内する時間もないことを残念ながら私は時間の許す限り会うことを約束しました。午後から急遽記者会見となりスケジュールが始まり、先生方についてまわる私は何をしてもいいやらわからずただその場の状況を写真に収める事に専念いたしました。

スケジュールを簡単に記載します。

第1日	12:30	ホテル到着
	14:00	新聞社会見 (サボイホテル内)
	16:00	カペックス訪問 サンタクルスブエノスアイレス事務所訪問
第2日	10:00	経済省エネルギー庁官会談
第3日	13:40	ウスワイア行き・調査活動
第4日	6:10	コモドロロバダビア行き SCPL・ENRP パタゴニア S・A 訪問
第5日	9:00	ピコトウルンカード市役所会議 水素実験工場視察
第6日	9:00	国際協力日本銀行にて会議
	11:00	中央政府環境保存開発庁にて会議

1) パタゴニア・チュブット州訪問

アンデス山脈と大西洋にはさまれ1年中40m位の強風が吹いているアルゼンチン南部・パタゴニア地方を訪問しました。それは数年前よりパタゴニアの強風を利用し水素エネルギーガスを起こしエネルギー源が少ない日本に「如何にして持ち込むか」という話を具体化する上で、水素エネルギー協会の先生方とアルゼンチン側の各関係者を交え実現化に向けてはしりだしました。今回は各省庁に具体案を提示し経済局エネルギー省長官・並びチュブット州・コモドロロバダビア・SCPL・ENRP パタゴニア会長、サンタクルス州知事らとそれぞれに会談し、現状、設置されている風力計や提示された風力データと年間天候観測データでは乏しいものであり即実現化

には難しいことが判明しました。現実にピコトゥルンカードの水素実験工場の見学やパタゴニアの草原を16キロ離れた所の106mの鉄塔に設置してある風速計を見ましたがプロジェクトを遂行するには不十分な点が多く課題を持ち帰り検討することとしました。しかし今回の成果はパタゴニア地区に観測をする為の風速計を設置する候補地を2箇所ほど決定したことで堅実に一歩進んだと思います。



写真1 会議



写真2 候補地



写真3 鉄塔

2) ウシュアエア

今回楽しみにしていたのは南極に一番近く、南米の最南端に位置するの街「ウシュアエア」を訪れることでした。古くから自由貿易港として栄え、又、避暑地としても有名でヨーロッパから来訪者が多いところです。夏だというのに気温は15度くらいで、私たちが泊まったホテルは空港より20分くらい走った山の中腹にあるリゾートホテルで暖房がたかかれていました。ホテルの部屋は壁と天井が花柄で調度品は英国風なもので統一され素敵な雰囲気でした。庭に出てみますと背後にアンデスの雪



写真4 風景



写真5 窓際風景

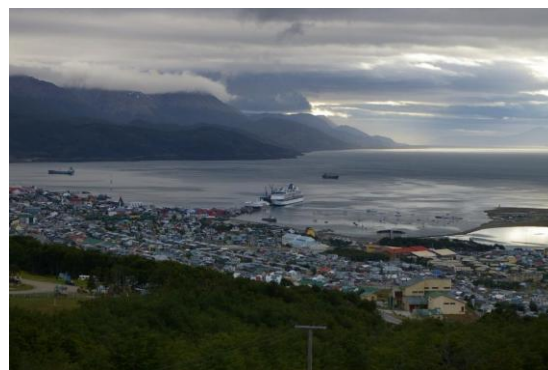


写真6 港の風景

の峰々と前面には美しいピーグル湾が広がり港には大きな客船が停泊しているのが見えました。

翌日は囚人博物館や船の記念館を見学したり、ピーグル水道のクルーズでペンギンが住む島へも行きました。また広大な土地を利用したティエラデルフェ国立公園はキャンプ場や乗馬をする人・トレッキングをする人・湖で釣りをする人たちがいました。公園内にはリスやウサギが多く見受けられ自然が一杯でした。私たちは時間が余りなく、思い出に囚人列車（世界の果て号）に乗り園内を巡り自然を満喫しました。

翌日、ブエノスアイレスに戻り今回のスケジュールを無事終え、ブエノスアイレスの名物料理であるボリュームたっぷりのステーキやエンパナーダや色々なチョリソーに舌づつみをうち、マルベック種のおいしいワインを酌み交わしながら反省会をしました。

先生方と別れた後、私はどうしても行きたかった[タンゴシー]を觀にタクシーを走らせました。タンゴ発祥・ボカ地区はオレンジ色の外灯で街が照らされ細い道の先に小さなタンゴリアがありタンゴの生演奏やダンスをしているのが外からでも觀ることが出来ました。その中でも私達は古くから有名なタンゴハウスで鑑賞することになりました。ショーが始まり次から次へと息を呑むようなダンスや演奏に魅せられ、ショーが終わる頃には何とも言えない充実感で胸が一杯でした。

ブエノスアイレスの旅も終わりに近づき多くの思い出が出来たことを嬉しく思いました。

終わりに今回のプロジェクトが実現化する為にはあと数年必要かも知れません。しかし今、世界中で騒がれている地球温暖化についても繋がるプロジェクトでもありますので、先生方のご尽力で成功することをお祈り申し上げます。

今回のバタゴニア・プロジェクト旅行に参加し、自然の力である風力や海水を利用して水素エネルギーガスを生み出す研究をされている先生方と行動を共に出来たことは私にとって一生の思い出となりました。